

「数式列を追加」機能について

- **数式列を追加**コマンドは、ダイアログボックスを用いて作成した数式列をすべてのレコードに一度に追加する機能です。
- **追加できる数式列**には、**数式**の他に、**条件式**、**ランダム値**、**日付の差分**、**累積計算**、**行番号**があります。
- 新しく作成される列の場所は、ワークシート上の**アクティブセルの位置**に挿入されます。

① 「ActiveData」タブをクリックします。

② 「ActiveDataワークシートコマンド」グループ内の「列」からいずれかのコマンドをクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	請求番号	請求日	支払日	顧客番号	営業担当者番号	製品番号	数量	単価	金額
2	20000	2010/1/1	2010/3/5	10220	8	8			16.0
3	20001	2010/1/1	2010/						99.7
4	20002	2010/1/1	2010/						
5	20003	2010/1/1	2010/						
6	20004	2010/1/1	2010/						58.0
7	20005	2010/1/1	2010/2/24	10777	1	5	4	229.00	916.0
8	20006	2010/1/1	2010/2/5	10653	19	58	2	129.00	458.0
9	20007	2010/1/1	2010/2/27	10413	12	61			
10	20008	2010/1/1	2010/1/23	10654	12	4	3	279.00	837.0
11	20009	2010/1/1	2010/1/26	10300	1	10	2	279.00	558.0
12	20010	2010/1/1	2010/2/21	10439	19	38	4	268.00	1,072.0

「列」 【数式列を追加】機能説明

新しく作成する列の名前を入力します。

右のボタンをクリックすると式ビルダーが現れます。ここに式を入力してください。

シートに二種類以上の日付の列があることが条件となります。「日付の差」項目の左側ドロップダウンリスト上で新しい日付の列名を指定し、右側ドロップダウンリスト上では古い日付の列名を指定することで、日付の差分を日数で表示させることができます。

ワークシート上で選択した列の左隣りに新規列を挿入し、行番号を表示させることができます。この行番号は、Excelの行番号がそのまま付与されます。データ分析の際にソート機能等を使用した場合、行の入れ替えが行われますが、行番号を挿入することにより、再度データ分析前の配列に戻すことができます。

設定した内容に応じて、表示/非表示が自動的に切り替わります。また、チェックを付した場合、「数式」「条件」「ランダム値の範囲」等の各機能に応じた列名が自動で作成されます。

チェックすると、数式の代わりに計算結果を保存しておくことができます。

数式をもとに列名を付ける(B)

結果を値で保存(S)

数式(F)

条件(V)

ランダム値の範囲(R)

日付の差(D)

累積計算(C)

行番号(R)

ExcelのIF関数（条件、条件が真の場合、条件が偽の場合）を設定することができます。「条件」を選択し、空欄に直接、または右のボタンの式ビルダーを使って設定を入力します。次に、条件が真と偽の場合に使う値をそれぞれ入力してください。これらにも式を入力することができます。

生成する値の下限と上限をそれぞれの空欄に入力してください。
-3から+3の（それぞれを含む）値を生成したい場合は、空欄に-3、+3と入力します。追加ボタンを押すとランダム番号という列が作成され、-3から+3までの数字がランダムに表示されます。

グループ対象ごとに選択した列の累積合計を表示します。グループ対象の列に同じ値が連続している場合、これを1つのグループと認識します。たとえば、グループ対象の列に「A, B, A」と値が並んでいた場合、最初のAと2回目のAは別のグループとして認識されます。したがって累積合計結果を算出したい場合は、事前にグループ対象の列でソートを行う必要があります。